

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ①経済対策
- ②新型コロナウイルス対策
- ③少子化対策と子育て支援
- ④DX推進事業
- ⑤子ども用ライフジャケット
- ⑥重くて高価なランドセルの問題

少子化対策と子育て支援について

問 公共施設において、子供連れに優しいインフラ整備が急務と考えるが、どのように進めていくのか。

答 おむつ替えスペース、ベビーベッド、ベビーチェア、授乳室は重要な子育て設備です。平成31年4月に伊予大洲駅公衆トイレにおむつ替えシートと授乳室の設置をはじめ、今年8月末までに11施設におむつ替えシート17個、授乳室2か所、ベビーチェア22個を設置しています。このうち、既存施設への整備は、総合福祉センターに授乳室1か所、ふれあいパークにおむつ替えシート2個、総合体育館にベビーチェア2個という状況です。公民館での設置は、令和2年に竣工した大和公民館1館ですが、今後、改築や大規模改造等を行う際には可能な限り整備したいと考えています。

その他の既存施設は、広さや構造上の制約があるため、全ての設備を整えることは難しい状況ですが、子育て世帯のニーズの把握、要望等を取り入れながら、早急に対応可能な分野から改善を図ることで、安心して子育てができる環境づくりを進めます。

DX推進事業について

問 今年度導入予定のLINE公式アカウントについては、具体的にどのような活用方法なのか。

答 大洲市LINE公式アカウントは、利用者が登録した受け取りたい情報の種類によって情報発信するセグメント配信機能の導入により、きめ細かな情報発信手段としての活用を予定しています。

現在は、メッセージの受信設定の構築に取りかかるなど、できるだけ早期の公開を目指し準備を進めており、具体的には、本市でも処理件数が多く、オ

ンライン化によって市民の利便性向上や業務の効率化となる手続、例えば施設の利用予約や水道の使用開始届などを優先的に検討しています。

また、申請手続のオンライン化に当たっては、市民に利用しやすい環境を提供すること、また職員が申請様式を作りやすいなど、業務の効率化を図れるシステムであることが重要だと考えており、多くの自治体で導入実績のある「LoGoフォーム」という自治体専用の電子申請システムで、利用者や職員の操作性などを研修予定としています。

こうした研修等の結果も踏まえ、様々な視点から情報システムを比較・検討し、より市民が利用しやすい環境を構築したいと考えています。

子ども用ライフジャケットについて

問 子供たちの命を守り肱川とともに安全に成長できるように、学校でライフジャケットを着用した水泳体験や啓発活動を提案するがいかがか。

答 本市には、肱川を中心として多くの支川があり、生活や文化と深く関わっています。しかしながら、こうした豊かで恵みのある河川で、時として貴い命が失われる事故も起こっているため、教育委員会としても河川等の水辺における子供への安全指導は重要と考えています。現在は、各小・中学校において、子供たちの命を守るために、市内共通の決まりや学校の決まりの配布・指導を継続して行っています。特に、水難事故の防止については、水泳学習が始まる前や夏季休業に入る前など、発達段階に応じて指導したり、消防署員を講師に迎えて、服を着たまま泳ぐ練習の実施、救命救急講習などを行っています。

ライフジャケットの活用は水難事故防止において大変有効です。子供たちを水難事故から守るために、川遊びなどが本格化する時期の前には、学校のホームページ等での啓発や、有効性を児童生徒に体感してもらうため、ライフジャケットを活用した指導について消防署とも検討したいと考えています。

